

## 「つながり」の大切さ

本年1月の能登半島地震から早2か月が経ちました。地震や台風など災害の時に毎回感じるのが、「人とのつながり」の大切さです。

特に最近の自然災害は甚大なものが多く、衣食住の全てを一瞬で失うこともあります。そんな中、衣類の提供や、炊き出しによる支援、そして仮設住宅の提供など、AIなどのICT機器が全盛の時代と言われつつある時代でも、やはり人間による温かな支援が求められていると感じます。

このような流れを学校現場に当てはめてみると、まさに人とのつながり方を育む場と言っても過言ではないのかもしれませんが。例えば、手紙などのプリントを後ろに回すときに声をかける場面や、落とし物を持ち主に届ける場面、そして、休み時間の遊びも人とのつながりで成り立っています。

我々教職員も日々の道徳の授業で、人とのつながりの大切さを考えさせる(この場合、内容項目は友情信頼になります)取組をしていますが、毎日の子供たちとの触れ合いの中でも、さらに子供同士におけるつながりの機会を増やしていきたいと思います。(文責:道徳部 久慈利幸)

## 5年生の道徳科の時間

今月は5年生です。この日の授業では、サーカス団のサムと言動を許し、受け入れるピエロの気持ちの変容を考えることを通して、自他の違いを認め、広い心で受け入れることについて議論しました。

主題名:広い心で受け入れる 内容項目:「相互理解、寛容」

教材名:「ブランコ乗りとピエロ」

あらすじ:サーカス団の花形である、空中ブランコ乗りのサムはリーダーのピエロの言うことを聞きません。そして大王の前で披露する大切な舞台を独り占めしてしまいます。そんな中、ピエロはサムの行動に対する自分の心情の変化と、互いに認め合うことのよさについて語り出します。この後、サムとピエロは息の合った演目で人々を魅了させるようになります。

### 教師の問い

あなたがピエロだったら、サムが勝手に大王の前で演技をしてしまったことを許しますか、許せませんか。またそれはなぜですか。

### 子供たちの考え

- ・許せない⇒自分の演技も見てほしい。自分勝手すぎる。もう一回同じことをされそう。
- ・許せる⇒上手なんだから仕方ない。将来有望だし、問題はない。

授業の後半では、授業のねらいである「広い心で受け入れる」について、改めて子供たちの考えを聞き、振り返りをしました。

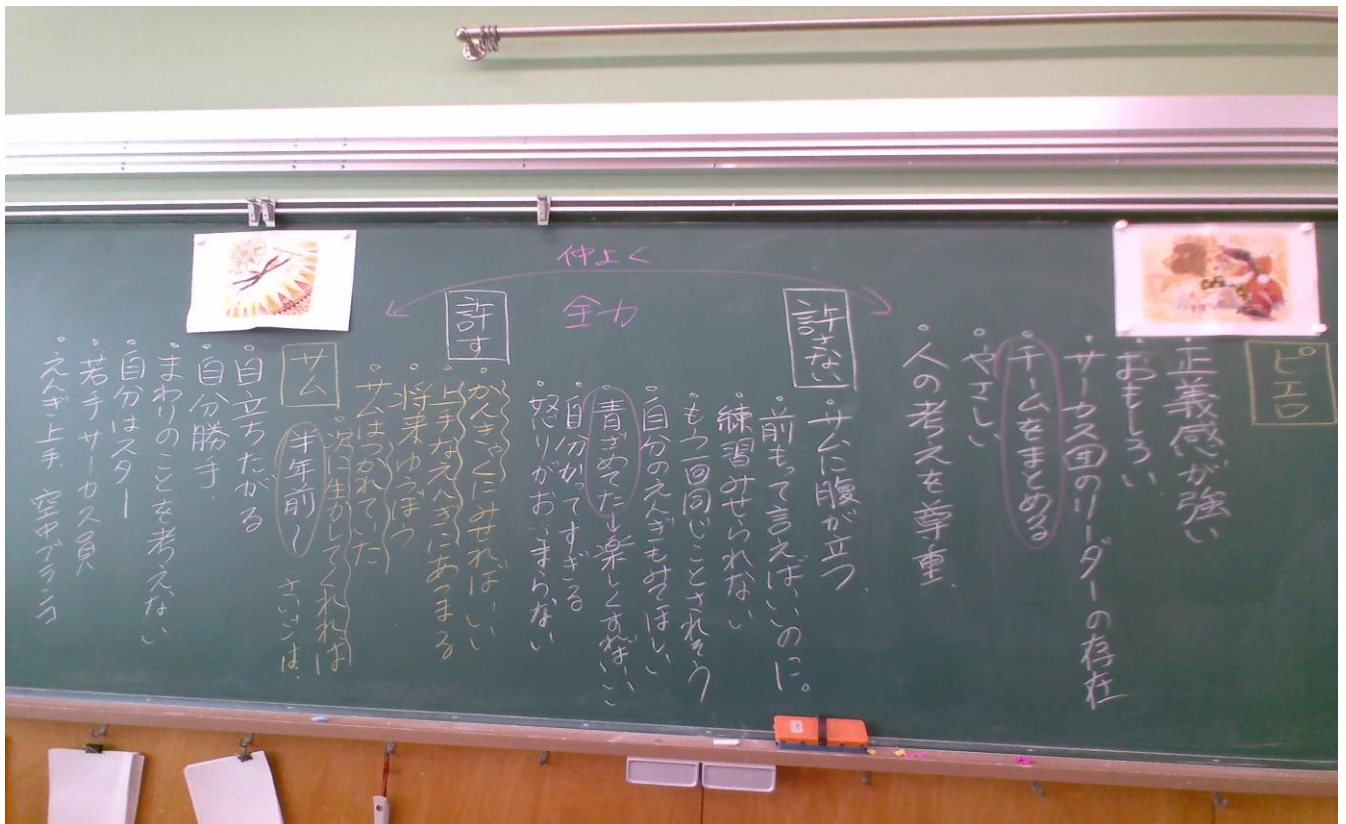
### 教師の問い

広い心で受け入れるために、これからどのようなことを大切にしようと思いますか。

### 子供たちの考え

- ・違いをよいところに置きかえて考えたい。
- ・自分と違う考えや意見から学びたい。
- ・違いにより様々な可能性が生まれることを知りたい。

自分と他者は、立場や考え方が違う存在であるということに気付いたり、相手の立場に立つとはどういうことであるかを考えたりして、思いを深めていました。



今年1年、ご覧いただきありがとうございました。

本年度も1～6年生の日々の道徳授業をご紹介することができました。昨年度の道徳授業地区公開講座でも多数の地域、保護者の方々のご参観があり、また、貴重なご感想やご意見もいただきました。ありがとうございました。

どうしても、道徳という難しいイメージがありますが、子供たちの心に栄養分を与える教科だと捉えていただけると分かりやすいと思います。植物の生育と同じように、子供たちの心の成長も発達段階に応じて差があります。来年度も子供たちの心の成長に応じた教材を使って、心のたねを一つ一つ心を込めて育てていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。